

# CTと3次元画像解析ワークステーションを用いた慢性肝疾患・びまん性肝疾患における肝機能、肝血流および肝線維化・炎症の評価

## 【はじめに】

CTは、画像診断装置の1つです。とくに肝疾患の患者さんには病変の有無を調べる上で日常診療には欠かせません。造影剤を用いない画像や造影剤用いた画像を駆使することで、腫瘍の精密検査の他に、肝組織の評価も可能です。撮影された画像は3次元画像解析ワークステーションを用いることで、より精密な画像解析法を行うことができます。しかし、依然として研究段階の解析方法が多く、従来の画像解析法では依然として十分な成果が得られているとは言えない肝機能および肝血流、肝線維化・炎症の評価に関して、より精度の高い診断法を確立する必要があると考えました。

## 【対象】

九州大学病院で、肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科、肝臓・膵臓・胆道内科もしくは総合診療科を受診し、肝精査のため過去に肝臓CTが撮影された方の画像(期間:2004年1月1日から2014年9月31日、目標対象数 500例)を対象とします。

## 【研究内容】

過去に肝臓CTが施行された患者さんのCTを、3次元画像解析ワークステーションを用いて解析を行います。CTを施行した直近の肝機能の指標(血清中アミノトランスフェラーゼ値、血清中ビリルビン値、血清中アルカリホスファターゼ値、Child分類、ICG値や肝受容体scintigraphy)を確認し、対比します。肝切除が施行された方では、手術後に病理組織学的に評価された肝線維化や炎症の程度の指標を確認し、対比します。それにより肝機能および肝線維化、壊死・炎症の評価に関して、より精度の高い診断法を検証します。

## 【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

## 【研究期間】

研究を行う期間は承認日から2018年3月31日まで。

## 【医学上の貢献】

従来の画像解析法では依然として十分な成果が得られているとは言えない肝機能および肝血流、肝線維化・炎症の評価に関して、より精度の高い診断法の確立を目指します。

## 【データの二次利用について】

本研究で得られたデータを別の研究に二次利用する可能性があります。その場合は改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認を受けた上で利用いたします。本研究で得られたデータは、研究終了後に速やかに消去いたします。記録媒体やCD、DVDに記録されているデータは、個人情報識別できるような情報が不可能な状態にした上で廃棄します。

## 【研究機関・組織】

研究責任者 医学研究院 臨床放射線科学 教授 本田 浩  
研究分担者 九州大学病院 臨床放射線科 助教 藤田 展宏  
医学研究院 臨床放射線科学 講師 西江 昭弘  
九州大学病院 臨床放射線科 講師 浅山 良樹  
医学研究院 消化器・総合外科 准教授 調 憲  
九州大学病院 肝臓・膵臓・胆道内科 講師 古藤 和浩  
医学研究院 総合診療科学 准教授 古庄 憲浩  
医学研究院 形態機能病理学 教授 小田 義直

## 連絡先

担当者:九州大学病院 臨床放射線科 助教 藤田 展宏

TEL 092-642-5695、FAX 092-642-5708

E-mail: n-fujita@radiol.med.kyushu-u.ac.jp